



光受寺通信

H.28年2月1日 発行
発行者 光受寺
<http://koujyuji.com/>

今年は年明け早々に体調を崩し、つらい思いで日々を送っていました。風邪のような、そうでもないような、不気味な症状を抱えながらの毎日でした。

医者へかかっても、薬を飲んでもしっかりと治らない原因不明の病気の不安は、3週間過ぎたころにピークに達しました。ちょうどこのころから咳がひどくなり、好きな煙草も全く吸えなくなっていました。父親が喘息で苦しんで苦しんで、それが主な原因として69歳で亡くなっていったことを思い出しました。

私がたばこを吸い始めてからおよそ50年が経ちます。誰かが、「よほどのことがない限り、たばこはやめられないよ」と言っていたはいましたが、今、自分の身が危ぶまれることになって、初めてそこに気づかされたように思われました。

人間は愚かなもので、自分の身を通してしか本当には理解できないということが多くあります。身の回りにいくら多くの事実があったとしても、事実が事実として受け止められていかない悲しさがあります。私も今年は親父が亡くなった年齢の69才となります。「ああ、自分もそんな年になったのだ」と感慨に耽りながら、知らされた事実を垂れています。

眞宗門徒のあり方を思う

M M

白骨の御文には最後のところに「後生の一大事を心に掛けて……」とありますが、私どものあいだでも熱心な信者を「後生ねがい」と言います。この場合の後生は浄土往生を意味していると思われず。

私もこれまで浄土往生が最終的な到達点だと理解してきましたが、親鸞聖人の思想を学ぶうちに、どうも浄土往生で完結するのではなく、さらにその先に還相回向の世界があることに気づくようになりました。正信偈の天親菩薩の章の末尾に「得至蓮華藏世界 即証眞如法性身 遊煩惱林現神通 入生死園示応化」とありますが、「ここには浄土に往生した者のあり方が示されています。つまり往生した者は、浄土にとどまるのではなく、再び煩惱の世界に分け入って、人々に相應の働きかけをするのが、阿弥陀仏の回向だと言いつつここになります。教行信証』の証の巻にも五種の門が示されており、第五門には、「園林遊戯地門」とあり、利他行を意味しております。

このように親鸞聖人の思想は、往相還相はセットになったものであり、ともに阿弥陀仏から回向されるものとして、浄土往生にとどまるのではなく、俗世に還って利他の行にはげむのが、眞宗門徒のあり方であると思われず。

浄土和讃にも次のようにあります。
安樂浄土にいたるひと 五濁悪世にかえりては 釈迦牟尼仏のごとくして 利益衆生はきわもなし
私どもは眞宗門徒として、浄土往生にとどまらず、還相回向にまで視界をひろくのが、本来のあり方だと思つ次第です。

春季永代経のご案内

三月二十日 春分の日

午前午後 お齋あります。

法話 午前 F S 師
午後 S M

永代経は、ご先祖からの願いに耳を開いていく良いご縁となります。是非お参詣いただきますように。

参加者 20名

毎年一月の第二土曜日には、有志の方々によって、おでんを囲んでの歓談会が開かれる。

今年は新しくご参加くださった方々を含めて二十名で開かれました。五百円と言いつ限られた予算で智慧と工夫を凝らして見事な宴を演出していただきました。

毎年好評なのが、おでんもさることながら、上手なべ「料理。生姜の利いた味噌の味は格別で、ずいぶんお酒も進んだようです。

親しくしているお寺さん御夫婦の参加もあって、いそいそ場が盛り上がりました。



あつという間に空っぽに

しだれ梅 飛龍梅(見ごろ間近)

各種催しも同時開催

一月(七日)土～三月(六日)日

今年は暖冬の為か、見頃が半月ほどは早まりそう。今月中旬には見頃となる気配が濃厚です。

遅い年には3月下旬が見ごろというところもありましたが、何せ自然相手。予定を立てるのは極めて難しいものです。

一番に困るのは、ライトアップの予定です。もうすぐにはあちらこちらからの問い合わせもあるのですが、町の行事との兼ね合わせもあって、今年は2月6日(土)に決めました。

当寺では観梅に合わせる坊守が主宰である「秀瑤書院展」が、本堂をお借りして開かれる(予定)になっています。

書と墨彩画
扇面草花譜 会員合同作品)

また、聴風庵(三ツギヤリ)では

「アマノヤネパール紀行」として写真展

が開かれます。

岐阜市在住の Y. K. S. H. O T O 8 X 1 0 (C) U B (主宰)

さらに例年の催しではあるのですが、ひな人形の展示や、つり雛の展示も庫裏を利用して行われることになっています。

毎年見学者の方やご参詣くださる方が増えてきていますが、今や東海三県は勿論のこと、大阪、京都といった関西方面からのツアーの方も多くなってきました。

門信徒の皆様にはご迷惑をおかけいたしましたが、ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。



月刊 ぶらざ 二月号

毎年多くの雑誌、新聞等で紹介されますが、本年もすでにいくつかの生活情報誌などで紹介されています。

今年も「光受寺学習会」が開かれます。

毎月第2土曜日(8月、12月はお休み)午後7時より～8時半まで
仏法を身近に感じながら、安心して生きられる人生をいただいきたいものです。ともに今を生きる人間同士、不思議なご縁でつながりながら生きていきたいものです。

新聞原稿募集中!!

身近な話題をご提供ください。

口頃の思い趣味旅行記 自慢話など、どんなことでも。